

序章(未定稿)

「大量生産・大量消費・大量廃棄」という社会・経済構造は、経済を発展させ、物質的な豊かさを実現する一方で、地球環境に負荷を与え、様々な環境問題を起こしています。

今や世界各地で記録的な高温や豪雨、強大化する台風など、気候変動の影響が顕在化し、被害は増加の一途を辿り、世界各地から気候非常事態宣言も表明されています。

また、軽くて丈夫で安価な素材として、我々の生活に浸透しているプラスチックに関しても、分解しづらい素材であるため、適正に処理されず自然界に流れ出たものが、海洋汚染を引き起こしています。さらに、平成 29 (2017) 年末の中国の廃プラスチック類等の輸入禁止により、国内の廃プラスチックが行き場を失っている状況も少なくありません。

本市のごみの排出量は、平成 30 (2018) 年度の実績で、年間 24,000t、1 人 1 日あたりにすると約 790 g のごみや資源物を処理しています。市民の高い分別意識により全国的にみても非常に少ないごみ量になっているものの、この中には、まだ食べられるのに捨てられている「食品ロス」や資源化可能な紙類、マイバッグを持ち歩くと断ることができるレジ袋などが多く含まれている状況です。

また、令和 3 年 10 月から稼働する新環境センターでは、ごみの焼却によって発生する熱エネルギーを利用するサーマルリサイクル(ごみ発電)を行うことにより、ごみの分別の見直しを行うこととしております。

こうした中、環境センターを更新するこの時期を契機に、市民、事業者、行政が一丸となり、地球環境はもとより、この守山のホテルが飛び交う自然環境を未来へつなぐため、これまでの価値観やライフスタイルを見直し、「大量生産・大量消費・大量廃棄」から脱却し、「最適生産・最適消費・最小廃棄」の循環型社会への転換を目指していく必要があります。そうしたことから、新環境センター稼働後の令和 3 (2021) 年 10 月から 10 年間の守山市の一般廃棄物処理を定めた当該計画は『地球環境にやさしい持続可能な循環型社会』の実現を基本理念とし、より一層、ごみの減量化に向けて取り組んでまいります。

なお、基本理念実現に向けては、3 つの方針で取り組んでまいります。1 点目は、Reduce (リデュース：発生抑制)、Reuse (リユース：再使用)、Recycle (リサイクル：再資源) の 3 つの R の頭文字をとった 3 R を推進します。とりわけ、必要以上の消費を行わない、製品を造る際の資源物の量を減らすなどといった、発生段階からごみを抑制する Reduce に重点を置いてまいります。

2 点目は、3 R を講じても、なお排出されるごみについては、不法投棄や野外焼却等

の不適正処理を未然に防ぎ、周辺環境の保全とともに健全な物質循環を維持するため、適正処理を推進します。

3点目は、環境学習都市宣言の具現化、3Rの推進を図るため、環境学習の充実を図ってまいります。

○基本理念

『持続可能な地球環境にやさしい循環型社会』の実現

○基本方針

(1) 3Rの推進 (2) 適正処理の確保 (3) 環境学習の充実

図 3Rの概念図



